

会 議 録

会議名	平成12年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会	
開催日時	平成12年10月24日(火)午後1時30分から3時15分	
開催場所	宇都宮市役所本庁舎 14A会議室	
出席者	【委員】小野里豊、福田久美子、藤枝実、藤野修逸、赤塚朋子、中尾久、神宮由美子、廣田宏子、湯澤博、葭葉リウ、伊藤宣秋、柿沼光子、児玉博利、小林勝義、増子三男、手塚修、川本由江、田中広 【事務局】榎淵宇都宮市環境部長、他12名	
公開・非公開	公開	
傍聴者数	1名	
議題	1、会長の選出について 2、会議の公開について 3、宇都宮市ごみ処理基本計画の改定について 4、その他	
会議結果	議題1	委員の互選により、小野里豊委員を会長として選出
	議題2	原案どおり公開することと決定
	議題3	今回の審議結果をもとに、事務局において整理の上、次回継続審議
	議題4	第2回は、平成13年1月18日(木)午後1時30分から、市役所14A会議室において開催
発言要旨【議題3関係】		
田中委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生抑制を第1に推進すべきである。 ・ 減量キャンペーン等啓発事業に予算も厚く配分すべきである。 ・ 買い物のスタイルを変えるような取り組みが必要である。 ・ 事業者の責任の強化も必要である。 ・ 中小企業のリサイクルを行政が後押しするような取り組みが必要である。 	
赤塚委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源循環型社会形成ということで資源化を推進しているようだが、リサイクルにはどうしても費用がかかってしまう。発生抑制を優先すべきと考える。 	
神宮委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的に自治会未加入者が多いアパート等集合住宅のごみ対策の一環として、将来的に、集合住宅単位での生ごみ処理機によるリサイクルを考えてみてはどうか。 	
福田委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼却ごみの約半分は生ごみである。本計画の改定に当たっては、生ごみの減量化・資源化を推進することを具体的に盛り込むべきである。 ・ うまくいかない事例もあるようだが、本市の生ごみ処理の方向を示すべきである。 	
川本委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみの分別収集を考えてはどうか。検討して欲しい。 ・ 集合住宅や自治会単位での、生ごみ処理機器による処理を、モデルとして実施すると良いと思う。 	
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみの減量化・資源化についての方策は多様であるべきと考える。各家庭、集合住宅、或いは地域での取り組みなど、幾つもの方策が合わさって効果が出るものと考えている。 	
藤野委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンポスト容器の普及が進んでいないようだ。コンポスト容器は自然の力で、安くリサイクルできるので、今後普及を図るべきである。希望者には無料で配布してはどうか。 	

砂川課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみのリサイクルは一方策ではいけない。ケースバイケースで考えたい。
藤野委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市15万世帯のうち、まだ1万強の世帯にしか普及していない。普及拡大を図るべきである。
会長 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみ処理機器の普及については、更に、啓発啓蒙をお願いしたい。
田中委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団回収が拠点回収からステーション回収に変わってきているようだ。拠点回収は地域のボランティアによるのに対して、ステーション回収は、市の5種9分別と同様の方法である。これに対して補助金を出すの如何なものか。 ・ 生ごみ処理機器は減容化には確かに効果があるが、出来た堆肥をどう使うかが重要である。この点についての提案も必要である。
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点回収の制度が望ましいが、ステーション回収による集団回収も本市の紙布類のリサイクルに一定の効果을上げており、地域の現状に合わせていくことが必要と考えている。 ・ リサイクルはすべて、資源が循環しなければ成り立たない。堆肥が循環することを考えたい。
川本委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校単位に生ごみ処理機を導入してはどうか。
田中委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務用の生ごみ処理機も初期段階であり、使い方に工夫がいるようだ。 ・ ある程度まとめた方が、施設の能力、運転者のノウハウも活用でき、うまくいきやすいと考える。
神宮委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現最終処分場は、延命化によりいつごろまで使えるのか。 ・ 新最終処分場はどの位になるのか。
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現最終処分場は、平成16年7月に埋立終了となる見込みである。 ・ 新最終処分場の容量は、40万立方メートルで計画しており、現状から推測すると、15年間程度はもつと考えている。
福田委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新最終処分場の整備に関して、地域住民の理解を得ることが大切と考えるが、説明会等の開催状況はどうか。
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明会は平成11年度、12年度、各2回開催しており、今年度は班別の説明会も開催したところである。戸別訪問による説明は随時続けている。 ・ 現最終処分場の見学会も実施しており、数団体等が実施している。 ・ 安全対策に万全を期すことはもちろん、万一の場合でも、早期発見、早期修復が出来るシステムとする計画である。 ・ 埋立施設の面積は約15ヘクタール、その他25ヘクタールは保全緑地とする計画である。
福田委員 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じテーブルで住民と話し合いを進めていただきたい。
中尾委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改定の方向性として、広域的な処理、大掛かりな処理というものを志向しているように感じるが、これだけでいいのか、これで解決するのかについて考える必要があると考える。
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域化の推進という基本方針は、生活圏の拡大に合わせて、又処理施設の共同整備の観点から設けているものであり、ひとつの方策であると認識している。
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ処理施設の整備も含め、ごみの処理には莫大な費用が必要となるため、行政には、効率化が強く求められているのも事実である。

川本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の視点は「出たごみを処理する」であるが、「ごみを出させない」視点、ごみの発生を抑制していくことが大切である。 ・ ごみの減量を実践していると、食品包装の多いことに気づく。行政から製造者等企業側に訴えていくことも考えて欲しい。 ・ 「これをやると、これだけ減る」といった数値目標的なものを市民に示したらどうか。
環境部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ処理は、現在の対症療法的な手法から、「出さない」方向に変わるべきと考える。 ・ 行政としては、市民一人ひとりがごみを出さないように、どう仕向けていくか、働きかけていくか、真剣に取り組みたい。 ・ 各種リサイクル法でも、生産する側も、消費する側も責任をもつこととなっており、その考え方で推進したい。 ・ 数値目標については、単に目標としてではなく、実現可能なものとして定めていくつもりである。